

【決議事項】 第1号議案 令和4年度事業報告の承認について

令和4年度 事業報告

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

1 概 況

令和4年度事業については、ほぼ予定通り実施されたが、新型コロナウイルス感染拡大により規模縮小あるいは中止になった事業もあった。協会主催の富士の巻狩り・狩宿さくらまつりや富士山お山開きは、規模を縮小して実施したが、コロナが蔓延する前と変わらぬほど盛況であった。特に富士山お山開きは、英国大使館からジュリア・ロングボトム駐日英国大使を迎え、日英親善交流事業やオールコック卿胸像除幕式等を実施し、国際色豊かなイベントとなった。富士登山については、令和4年度の登山者数は41,549人で対前年度比264%の増となり、コロナ前の令和元年度に対し7割近くまで回復した。

あさぎり高原まつりについては、朝霧地域の施設の回遊性の向上を図るとともに、アウトドアスポーツのメッカとしてのイメージを定着させるため、10月中をまつり実施期間としPRに取り組んだ。まつり期間中あさぎり周遊乗合タクシーの利用を呼びかけ、地域内移動における利便性の向上に努めた。また、昨年に続きE-BIKEのレンタル料半額キャンペーンを実施し、E-BIKEの利用促進を図った。

主要事業である誘客宣伝については、様々な観光施設の情報発信をするとともに、ホームページの充実を図った。ホームページのアクセス件数も毎年増加している。

4年度は富士宮市市制施行80周年を記念して実施されたイベント等を積極的にPRし、市内外からの誘客に努めた。

そのほか、富士山をはじめ、朝霧高原、白糸ノ滝、田貫湖、芝川の田園風景など美しい自然と、富士山本宮浅間大社・大石寺など由緒ある神社仏閣や食に関する情報を発信した。

新型コロナウイルスへの対応としては、減少した観光客を呼び戻すため、富士宮市の観光施設（参加店舗）で使えるプレミアムクーポン券（きて宮クーポン）を2度にわたり発行し、総額5,000万円分を完売し全国からの誘客を図った。

広域的な取り組みとしては、しずおか富士山利活用推進協議会の中で、東京や名古屋で観光物産展を実施し、富士地域全体の観光誘客事業を行った。新型コロナによる山小屋の収容人数制限への対応や、超高齢化社会においても富士山を楽しめるよう、富士下山と周辺エリアにおける回遊プランを提供し、夏山だけでない通年の誘客を促進した。

また、富士山観光交流ビューローと共同で高崎市において観光物産展を開催した。

事業協力として、飲食関係では特産品の新規開発事業として実施している「それみやげにして宮」を主催するとともに、酒造組合富士会とジェイアール東海が新富士駅で実施した富士宮のお酒PRイベントに協力した。富士山関係では富士山をいつまでも美しくする会が実施した富士山一斉清掃に参加した。観光誘客としては、神田川精霊流し、富士山と中秋の名月を愛でる会のお月見イベント、献香祭、田貫湖まつり、浅間大社と白糸の滝のライトアップ、富士山の麓のまちの旅コンテスト等に協力した。また、教育関係では、観光まちづくり実証的事業をテーマに富士宮市を調査している東洋大学国際観光学部の佐野ゼミの事業に協力するとともに、静岡県教育委員会が実施する「オンライン・ハイスクール」事業に採択されている富士宮北高校と富士宮西高校の地域連携事業に協力した。

富士と琵琶湖を結ぶ会事業については、本年度も一般市民の募集は行わず、役員及び関係者での訪問とした。琵琶湖への富士山御霊水献水式などの公式行事を執り行った。

観光案内業務については、富士宮市や富士山を訪ねる観光客をはじめ、電話による相談、照会等様々な方の利用に対応した。事務所を兼ねた富士宮駅観光案内所では、各種イベントの情報、旅館、ホテルの紹介、観光施設の案内、絵葉書・カレンダーの販売等を行った。令和5年2月以降は外国人の利用も目立ってきた。

夏山登山期間中、表富士宮口五合目登山口で、登山者への装備や登山指導、観光案内を行う「富士登山ナビゲーター」を配置し、遭難事故及び道迷いの防止に努めた。

白糸ノ滝駐車場の利用状況については、乗用車を中心に利用が増えており、安定した運営状況となった。また、土地購入に係る借入金の長期返済も無事完済した。白糸ノ滝駐車場は観光案内所の機能も併せ持つため、訪れる観光客に休憩環境を提供するとともに、北部地域の観光案内の拠点として観光施設等のパンフレット等を備え情報提供した。また、各種メディアを通じての誘客宣伝による白糸ノ滝への観光PRなどを実施した。